

平成 30 年度 (2018 年)

日本声楽発声学会

第 107 回例会 第 54 回総会

平成 30 年 5 月 27 日 (日)

9 時 55 分 ~ 16 時 30 分 (受付 9 時 30 分より)

お茶の水女子大学 講堂 (徽音堂)

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

(東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩 7 分)

お茶の水女子大学へのアクセスは、別紙にてご案内しております。

(お願い)

- ① 携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ② 録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。

(なお、本学会では記録用として録音録画はしますが、それ以外は個人のプライバシー保護のため、厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。)

日本声楽発声学会 第107回例会・第54回総会

会員の皆さまには、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。
爽やかな5月の第107回例会、第54回総会のご案内を申し上げます。私たちの研究の一助を願って、会員による研究発表や、現在の咽頭に関するIT技術の進歩に於ける特別講演、世界を舞台にご活躍の現役歌手の講師の方々のご協力を得て、下記のようなプログラムを企画致しました。また総会においては、本学会の諸規程の見直しもございますので多くのご参加をお待ちいたします。

会長 永井和子

プログラム

開会挨拶	9:55 ~ 10:00	総司会	佐々木正利
		会長	永井 和子
A 研究発表	10:00 ~ 11:10	司会	鈴木慎一郎

- ① 10:00 ~ 10:30 (質疑応答含む)
泉 恵得 (琉球大学名誉教授・声楽家・本学会理事)
テーマ: 音楽学的演奏学
- ② 10:35 ~ 11:05 (質疑応答含む)
永原恵三 (お茶の水女子大学基幹研究院教授・本学会理事)
テーマ: 歌唱における身体的思考

第54回総会 11:20 ~ 12:20

総会資料は、当日配布いたします。
総会次第は7頁をご参照ください。

— 昼 食 —

B 特別講演 13:00 ~ 15:00

司会 西浦美佐子

演題 声帯の発見の歴史と最近の人工喉頭インプラントまでの歌唱に関連した医学の動向について。

講師 加我君孝氏 (かが きみたか) (東京大学名誉教授)

講演概要

東京大学名誉教授 加我 君孝

歌唱は西暦前の古代エジプトのヒエログリフの絵や古代ギリシャのコロス（合唱）のように人類の文化と共に始まった。わが国では記録のある奈良時代から仕事の歌や宗教的音楽と共に親しまれてきた。この歌唱に関する医学や科学は古代ギリシャの2,500年前の医師・ヒポクラテスがすでに失声はどのような状況で生じるか詳細な記述がある。声帯は喉に手を触れると振動を感じることから喉頭にあることは予想できたことであろうが初めて観察したのは誰か？ローマ帝国時代の医師・ガレヌスが声帯の反回神経モデルを提唱していた。ルネサンスになってレオナルド・ダ・ヴィンチの解剖図に初めて声帯と気管が描かれている。しかし、発声時の声帯を初めて見たのは誰か？19世紀のスペインの歌手・ガルシアが歯科用の小さなミラーに太陽光を当てて見たのが初めてである。20世紀後半になってフレキシブルな経鼻内視鏡の開発により簡単に声帯も声帯運動も観察ができるようになった。

歌手の声の異常について“職業病”として初めての記載は1700年に発行されたラマツォーニの「働く人々の病気」に紹介されている。ただし声帯の病変の記載はない。声帯に生じた病変の治療は20世紀半ば東ドイツで始まり、“ラリングマイクロサージェリー”と呼ばれ手術用顕微鏡下に声帯を直視して病変の外科的処理を行う。声帯の初期の病変はネブライザーや薬剤投与で行われる。声帯にガンが生じ、進行した場合は、喉頭の全摘手術を行う。無喉頭の患者に再び声を与える方法には食道発声と電気喉頭を使う方法に分かれる。前者はリハビリテーションによって食道発声法を身に付け、後者は手をもって喉にエレクトロラリンクスから振動を与えることで自由会話が可能となる。

声帯の片側の運動が麻痺した場合を反回神経麻痺といい、麻痺側の声帯を正中へ移動させてより良い発声を可能とする手術がある。一方、競走馬の片側の声帯麻痺に対して反回神経を電気刺激することによって声帯を動かす人工喉頭インプラントが現在開発されている。

IT技術の進歩によって音声合成が身近な技術となり、さらに“初音ミク”のような合成音声の歌唱によるコンサートも行われるようになった。この場合声帯の関与は全くない。

音楽と脳の研究は19世紀より盛んである。失音症や脳における音楽中枢の局在性の問題など最近の成果を紹介する。

加我君孝氏プロフィール

北海道生まれ。1971年東京大学医学部医学科卒業。東大病院研修医、帝京大学医学部耳鼻咽喉科学教室助手、講師、助教授を経て、東京大学医学部教授。現在東京大学名誉教授。米国ジェファーソン医科大学の医学教育・医療研究所、UCLA脳研究所に留学。東京医療センター・名誉臨床研究センター長、国際医療福祉大学教授・言語聴覚センター長、日耳鼻東京都地方部会長。主な研究分野は、聴覚認知、両耳聴、脳と言語・音楽、聴性脳幹反応の臨床応用、乳幼児の難聴、バランス機能の発達、言語の神経科学。臨床は聴力改善手術、人工内耳埋込術を中心とする“耳科学”。耳科学・平衡神経学・小児耳鼻科・心身医学神経心理などの関連領域を含め、末梢から大脳、新生児から高齢者、手術からリハビリまで幅広い視野で取り組んでいる。医学教育にも力を注いでいる（医学教育学会牛場賞受賞）。

C 現役声楽家の演奏とお話 15:20 ~ 16:20 司会 虫明 眞砂子

講師 浜田理恵氏（はまだ りえ ソプラノ）
ピアノ ミツ石潤司氏（みついし じゅんじ）

《演奏曲目》

1. A. Parisotti 《 Se tu m'ami もし貴方が私を愛してくれて 》
2. G. Bononcini 《 Per la Gloria お前を讃える栄光のために 》
3. G. F. Händel 《 Lascia ch'io pianga 私を泣かせて下さい 》
4. G. F. Händel 《 Bel piacere なんてすてきな喜び 》
5. V. Bellini 《 Norma ノルマ 》より 〈 Casta Diva 清らかな女神よ 〉
6. G. Verdi 《 Otello オテロ 》より 〈 Salce, salce 柳の歌～Ave Maria アヴェ・マリア 〉

《プログラミングの意味するところ - 日本人に大きく欠けるものに焦点》

このプログラムは普通にいい音楽を聴いて楽しむためだけに組んだものではありません。美しい音楽ばかりですが、普段日本人とその他の国籍の方をお教えしていて日本人に大きく欠けるものに焦点を集めました。殆どの日本人にばかり起こる発声上の問題は日本語を喋る特性から来るもので、日本人が怠慢であったり、声が劣っていたりするわけではありません。

最初のイタリア古典歌曲でお聴きいただきたいのは、子音と母音を別々に認識して子音の位置にまで母音を揃えることです。そしてヘンデルのあたりで、吸気の筋肉が全てを支配することを聴いていただきたいと思います。ポジションを一音ずつ変えてはいけなく、変わりようがないのです。アジリタは腹筋ではなく口の内側の筋肉のあり方で他の筋肉が変わります。

Casta diva では、完璧な位置のアタックがフレーズを支配する例を聴いていただ

きたいと思います。そして日本人に大いに欠けること ― 言葉を喋ること、レチタティーヴォのテクニック、声で演技をすること、シチュエーションを声に含めること、それらを息継ぎの段階で準備することのモデルにデズデモナのアリアを選んでみました。

プロフィール

浜田理恵氏

東京芸術大学卒業および同大学院修士課程終了（中村浩子氏に師事）後、パリに留学、イザベル・ガルシザンズ氏に声楽を、イレヌ・アイトフ氏にフランス歌曲を学ぶ。

1991年パリ市立シャトレ劇場にてデュカ「アリアヌスと青ひげ」（指揮 エリアフ・インバル）でオペラデビュー。UFAM主催国際声楽コンクールで第1位、およびディクソン、スペイン音楽賞、演奏技術賞を受賞。92年、第19回パリ国際声楽コンクールオペラ部門で第1位。国立バリバスティエウオペラでオネゲル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」をジョン・ミュンフンの指揮の下で歌い絶賛される。以降数々のオペラに出演。97年パリ市立シャトレ劇場にてフィリップ・マヌリーのオペラ「北緯60度線」世界初演にマリア役で出演。98年、トゥールーズ歌劇場にてステファノ・ランザーニの指揮でプッチーニ「ラ・ボエーム」のミミを歌う。以後、国立リヨン歌劇場で「ラ・ボエーム」ミミ、トゥールーズ、パリシャトレ劇場でランドウスキー「モンセギュール」、ドビュッシー「放蕩息子」（指揮 ミシェル・ブラッソン）、アヴィニョン（指揮 アラン・ガンガル）サンテティエンヌ（指揮 ロラン・カンペッローネ）で「トゥーランドット」のリュウ役、トゥール歌劇場でモーツァルト「ティトの慈悲」ヴィテリリア役（指揮 イヴ・オッソンス）、グノー「ファウスト」マルグリット役（指揮 イヴ・オッソンス）などに出演。

日本においては、びわ湖ホール・プロデュースオペラ ヴェルディ「ドン・カルロ」（総監督・指揮：若杉弘）エリザベッタ役、ヴェルディ「ジョヴァンナ・ダルコ」のタイトルロール、新国立劇場でドビュッシー「ペレアスとメリザンド」（指揮：若杉弘）、「カルメン」ミカエラ役（指揮：G.バルバチャーニ）、「トゥーランドット」（指揮：A.アッレマンドイ）リュウ役、東京文化会館、黛敏郎「古事記」アマテラス役（指揮：大友直人）、兵庫県立芸術文化センター「蝶々夫人」タイトルロール（指揮：佐渡裕）などに出演。1997年出光音楽賞受賞。

現在、お茶の水女子大学非常勤講師、フランス在住。

三ツ石潤司氏

兵庫県生まれ、東京芸術大学作曲科卒業、同学大学院博士課程（音楽学）単位取得。アンリエット・ピュイグ＝ロジェ女史にコレペティツィオン、伴奏を学ぶ。その後ウィーン国立音楽大学に学び教育科、作曲指揮科講師を経て、同学で初めてのアジア人声楽科専任講師としてリート・オラトリオ科でエディット・マティス教授のアシスタントなどを務める。その傍ら、ウィーン、パリを始めヨーロッパ各地の劇場や音楽祭でコレペティートア、またロームミュージックファンデーション主催の音楽セミナー（指揮指導：小澤征爾）講師として活躍。現在は帰国して日本各地で、コレペティートア、伴奏者、作曲家として活動。伴奏法や演奏解釈を中心に後進の指導にあたっている。武蔵野音楽大学教授。東京芸術大学講師。長年の功績に対して2009年にオーストリア共和国功労金賞受賞。

閉会の挨拶

副会長 川上 勝功

◎ 参加費

・正会員は不要です。（年会費未納の方は至急納入をお願いいたします。）

・臨時会員6,000円（大学院生6,000円、大学生以下4,000円）

*学生の方は、当日学生証の掲示をお願いいたします。

◎ 参加申込について

・正会員の方は、今回は総会がありますので、**5月17日(木)までに**同封のハガキで必ずご出欠（欠席の場合は委任状）のご提出をお願いいたします。

・臨時会員として参加される方は、参加費を下記の郵便振替口座に、**5月17日(木)までに**納入してください。通信欄に、「5月例会参加費」と明記し、所属、紹介者、住所、氏名、連絡先を明記してください。当日の参加受付も可能ですができるだけ事前の申し込みをお願いいたします。当日受付で入金を確認させていただくことができますので、振込受領書、または振込明細をご持参ください。なお期日を過ぎた場合は入金確認ができませんので当日申込・受付払いをお願いいたします。

振込先 郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会

◎ 昼食の事前申込について（昼食弁当は、事前申込のみとなります。）

・会員の方は、5月17日(木)必着で、事務局へFAX、E-mailのいずれかでお申込みください。総会出欠ハガキの下段に昼食の申込み箇所がありますので、ご利用下さい。（電話での申込はご遠慮ください）。お弁当（お茶缶付）1,080円（税込み）です。昼食は、お茶の水女子大学講堂のある本館内会議室（当日ご案内します）をご利用ください。当日、受付でお支払いいただき、引換券をお渡しします。

臨時会員で昼食お申込みの場合は、例会参加のお申込みの際の「振込取扱票」に書き添えてお申込みをお願いいたします。代金は当日受付時にお支払い下さい。

◎ 連絡先

日本声楽発声学会事務局（担当：安原）

〒215-0003 神奈川県川崎市麻生区高石4-11-14-409

Tel & Fax : 044-577-2037 E-mail : info@jars-voice.org

日本声楽発声学会 第54回 総会次第

1. 開会の挨拶
2. 議長の挨拶
3. 議 題
 - (1) 平成29年度事業経過報告
 - (2) 平成29年度収支決算報告
 - (3) 平成29年度監査報告
 - (4) 平成30年度事業計画案審議
 - (5) 平成30年度予算案審議
 - (6) 諸規程見直し案審議
 - (7) 会員の異動
4. 閉会の挨拶

(ご案内) 臨床音声学研究会東京
2018年5月26日(土)午後5時から午後7時。
場所は東京渋谷東急本店裏「呼吸と発声研究所」です。(http://www.att-yoneyama.com)
声楽発声学会会員で医師関係の人が中心に行っている研究会ですが、どなたでも参加は
ご自由です。参加費は1,000円です。
参加希望者は氏名と連絡先を記載の上、5月19日までに竹田までお願いします。

(FAX 03-5313-3281、e-mail: CQN00234@nifty.ne.jp)

竹田 数章 仙川耳鼻咽喉科院長

